

全国高等学校総合文化祭、書道パフォーマンス甲子園 in EXP0 及び 国際数学オリンピックにおける成績について

学びの改革支援課

1 松本美須々ヶ丘高等学校演劇部

第 49 回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭 2025）演劇部門 最優秀賞（1 位）

(1) 全国高等学校総合文化祭とは

高校生の創造活動の向上と相互の理解を深めることを目的として開催される高校文化部の祭典。長野県では平成 30 年（2018 年）に「2018 信州総文祭」として、県内全域で 25 部門を開催した。本年度は 7 月 26 日（土）～31 日（木）の 6 日間にわたり香川県で開催された（かがわ総文祭 2025）。

(2) 松本美須々ヶ丘高等学校演劇部について

現在の部員は 20 名。キャストやスタッフとして一人ひとりがこの作品に欠かせない役割を担った。地区大会・県大会・ブロック大会を勝ち抜き、全国約 2,000 校のうち 12 校しか推薦されない全国高等学校総合文化祭に 7 年ぶりに出場を果たした（前回は優秀賞）。受賞作「愛を語らない」は、大正末～昭和初期の日本を舞台に、著名な文豪の娘に生まれた女性・柴山亜伊を通して家族の愛を描いた作品。

2 松本蟻ヶ崎高等学校書道部

書道パフォーマンス甲子園 in EXP0 優勝

(1) 書道パフォーマンス甲子園（愛媛県）

愛媛県立三島高等学校書道部員たちが、平成 13 年頃から高校の文化祭などで書道パフォーマンスを始め、それに注目した行政や地元の依頼により、平成 20 年夏、四国中央紙まつりのイベントの一つとして開催されたのが「書道パフォーマンス甲子園」の始まり。松本蟻ヶ崎高校は平成 21 年大会から参加しており、令和元年第 12 回大会から第 15 回大会まで 3 連覇を果たした（新型コロナウイルスの影響で第 13 回大会は中止）。今年度 7 月に開催された第 18 回大会では準優勝。

(2) 書道パフォーマンス甲子園 in EXP0

世界中から人が集まる大阪万博において、日本の「地方創生 SDGs」を国内外に発信する手法として「伝統的な美しさ」「華やかさ」と「メッセージ力」を備えた高校生の書道パフォーマンスが最も効果的であるとして、内閣府と連携して実施されたもの。第 18 回書道パフォーマンス甲子園の上位 5 校と愛媛県立三島高等学校が出場し、松本蟻ヶ崎高校はこの大会で見事リベンジを果たし優勝した。9 月 22 日から日中友好協会の協力により中国河北省にて書道パフォーマンスを披露する予定。

3 松本深志高等学校 狩野 慧志さん

第 66 回国際数学オリンピック 個人世界第 1 位

(1) 国際数学オリンピックとは

高校生以下の数学好きな生徒が 2 日間に渡り、計 6 問の筆記試験に挑む。一つの国から出場できるのは 6 人まで。日本は 1990 年に中国・北京で開かれた第 31 回大会に初めて参加し、それから毎年 6 人の選手団が参加。2003 年には第 44 回大会が東京で、2023 年には第 64 回大会が千葉県・千葉市で開催された（日本の成績は 2023 年 6 位、2024 年 14 位、2025 年 4 位）。

(2) 狩野慧志さんと数学

小 2 で数学検定 8 級、小 5 で準 1 級に合格。中 1 で 1 級に合格し、文部科学大臣賞を受賞。また小 3 から日本ジュニア数学オリンピック（以下 JJMO）に出場している。中 3 の時に日本数学オリンピック（以下 JMO）で銅賞を獲得したことにより、高 1 で国際数学オリンピック（以下 IMO）に出場、この時は個人 55 位であった。高 1・高 2 の JMO では 2 年連続金賞（川井杯）、高 2 の IMO では金賞（個人 4 位）、高校時代最後となる高 3 での IMO では念願の満点での金賞を受賞し、個人世界第 1 位となった。